

祭 事 暦

5月1日・20日午前8時30分  
 月次祭  
 5月5日 国府祭  
 午前8時00分 社頭発興  
 正午 古式座問答 神捕山  
 午後3時40分 神対面の儀 大矢場  
 午後7時30分 社頭還幸



発行所  
 寒川神社社務所

〒253-0195  
 神奈川県  
 高座郡寒川町宮山3916  
 電話 代表0467(75)0004

編集者 前島 正  
 責任者  
 印刷所 樹さんこうどう



第300号 平成10年9月1日発行



第400号 平成19年1月1日発行



創刊号 昭和44年3月1日発行



第100号 昭和57年1月1日発行



第200号 平成22年5月1日発行



暑さ寒さも彼岸までと言われますが、今年は四月に入っても冷たい雨の日や寒い日が多くあり体調の管理には一層の注意を払い、外出時の服装等には特に気を使って過ごした一ヶ月でした。ようやく五月に入り、風薫り新緑が一層まぶしく感じる心地よい季節を迎え、田植えや野菜の作付けも進み、田畑の風景も一新され、大地も人も活気漲る季節を迎えました。私達は昔から万物に神様の存在を信じその恵みをいただき、感謝の祈りを捧げる生活をしてまいりました。大地に育まれる豊かな生活が私達の理想です。永い歴史の中には心ならずも不幸な時代を過ごしてきたことも何度か認められます。先の大戦も不幸な出来事の大きな一つであり、今年終戦七十を迎えました。私達は今日の平和に感謝し、護国の英霊をお慰め申し上げ、国の安寧に力を尽くさなければならぬ覚悟を強く持たなければなりません。国外においては、世界は必ずしも平和であるとは云えない状況が続いています。終戦七十年にあたり、当社社では八月の終戦の日近くに、慰霊と世界の恒久平和を祈る平和祈願祭を寒川町内十二ヶ寺の僧侶の方々と合同にて執行致したく現在計画しているところですが、「今ある」ことの感謝と祖先と英霊の「みこころ」を感じする一助となりますれば幸いに存じます。当社報「相模」もお蔭様で、昭和四十四年三月の創刊以来今月号で五百号を迎えることが出来ました。氏子・崇敬者の皆様の信頼と御愛読に厚くお礼申し上げます。

(石腰 亮)

特別寄稿

# 五百号発刊をお祝いして

北海道神宮 宮司 吉田源彦



貴神社社報「相模」がこの五月号を以つて発刊五百号をかぞえられるとのこと心からお祝いを申し上げます。私も六年間ほど携わらせていただいたこともあり殊の外感慨深いものがございます。

今、当時の事を思い出しますと、宿直の朝、社務所の雨戸を開け、六時の太鼓を打つ。正宿者（宿直二名奉仕の上席の人）は拝殿に向かい扉を開け放ち、神饌を調理し、整うと狩衣を着け、神饌を献じ日供（神様への朝のお食事、朝御饌）奉仕をされ、引続き二人で神門内の清掃。最後に熊手で砂利の目を整える。もちろん宿直者以外も神門の外を神職全員で清掃。掌には

ママができて固くなつていたことが自分への勲章のような気もしていました。

当時、宮山七町内に住まわれていた方々によつて一軒ずつ毎日交替で、ある方はお米をお盆一杯、ある方はジャガ芋ひと盛、またホウレン草、にんじん等々をお持ちになり、帳面に書かれたお名前の下に、「寒川神社」の印を押し、撤下物を一箱差し上げて、帳面をお隣りさんへ届けて頂くというシステムが機能して、驚きと有難い気持ちになつたことは今でも忘れられないことです。

先輩神職にお聞きすると「当神社は戦後神職の居ない時代があって、地元の方々が、神様に申し訳ないことゆへこのよつなことが始まつたと聞いているよ」と聞かされ更に感動したことであります。このことは昭和四十六年頃まで続けられていました。

昭和四十四年、当時の寒川外科医院が諸事情により



寒川神社の傘下になり、その後十年を機に、場所も建物も一新され、総合病院として開業されて暫く経つた頃、高倉健さんがお一人で祈願にお見えになつた時社報「相模」をご覧になり「随分大きく立派になつたんですね」といわれ、以前から神社が医院を町の方々の便を図つて経営していることを御存じでいらつしやつたので、ごく自然な会話でしたが、「ここは静かですし、入院治療には良いですね。都内ですとかなかなかゆつくりもできませんから」と冗談とも本気ともとれる様子で「電話すれば良いでしょうか」とまで仰られ私から手配させて頂きますとのことで、ニコツとされたことが思い出され、私が札幌へ転任したあと、札幌へ来られ、試写会での舞台挨拶の折にもお声懸け下さり、社報の編集という素晴らしい仕事につかせて頂いた事を五十年近くも昔のことではあります。が記憶を辿ってみました。

御社頭のますますのご隆盛と社報の一層の充実をお祈りいたします。

## 年参講大祭齋行

四月四、五日の二日間に亘り、年参講大祭が齋行され、氏子をはじめ各地区の講社団体の方々が、日頃の御神恩に感謝を捧げ、地域の安全と講員の無病息災が



祈願されました。

五日には宮山地区の方々が参拝され、疫病等が流行らぬよう祈る衛生祈祷祭も併せて齋行されました。またこの日は、総代や氏子有志による奉納演芸大会が境内で賑やかに開催され民謡や舞踊・カラオケなどが披露されました。



## 昭和祭齋行

先帝陛下の御生誕の日である「昭和の日」（四月二十九日）、昭和祭が齋行され職員一同が参列し、昭和天皇の聖業を讃え、更なる皇室の弥栄と国の隆昌が祈願されました。

「昭和の日」は平成十七年「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧

み国の将来に思いをいたす」との趣旨で「みどりの日」から法改正されたものです。私共は、昭和天皇の御聖徳と大御心を拝することにより、昭和の御代を改めて見つめ直し、この祭日の意義を次の世代に伝えて行くべく努めて行かねばなりません。



五月五日

国府祭御神幸時間のお知らせ

この祭典は「いこのまち」とも呼ばれ、大磯町国府本郷の神揃山に相模国一の宮寒川神社・二之宮川勾神社・三之宮比々多神社・四之宮前鳥神社・平塚八幡宮の神々が神輿にて参集し、古式「座問答」が行われますその後大矢場にて総社六所神社との神対面の儀・国司奉幣の儀が行われます。

神幸時間表

五月五日(火)

- 七〇〇 諸員参集
- 七二〇 遷霊祭
- 七五〇 発輿祭
- 八〇〇 社頭発輿
- 九〇〇 平塚通過
- 一〇三〇 神揃山祭
- 一一〇〇 古式「座問答」
- 一一三五 神揃山発輿祭
- 一二〇〇 神揃山発輿
- 一四〇〇 大矢場着御
- 一五〇〇 神対面の儀
- 一五五〇 国司奉幣の儀
- 一六〇〇 大矢場発輿
- 一九三〇 社頭還幸

▼ 座問答



社頭還幸時間は道路状況により大幅に前後する事もあります。



▲ 神対面の儀



▲ 国司奉幣の儀

あらたなる息吹をのたぎらせて

水無月大祓

大槻式並芽の輪神事  
六月三十日(火)  
午後二時着行

茅の輪をくぐり  
身についた罪穢を  
払い清めましょう

寒川神社

新緑の季節、神嶽山神苑にて和やかなひと時をお過ごし下さい

入苑券を持参の上ご来苑下さい

※雨天時は中止  
一回約二十分間

神嶽山神苑  
五月の行事案内

神楽舞と雅楽の奉奏

六日(水・振休) 十四時より  
十日(日) 十一時・十四時より  
十七日(日) 十一時・十四時より

# 終戦七十年 平和祈念行事のお知らせ

本年終戦七十年を迎えるに当たり、寒川神社では八月九日(日)から十五日(土)までを平和を祈る週間と定め、各種平和祈念行事を実施致します。氏子崇敬者の皆様方も御参拝の上ご覧いただき、平和への思いを新たにされる機会にされてはいかがでしょうか。

記

八月九日(日)

午前十時

引続き

「平和祈願祭」

「平和祈念式典」

於 本殿

於 参集殿

町内十二ヶ寺との合同平和祈願祭を行います

共催 寒川町仏教会

神社及び寺院関係者のみの参列とさせていただきます。

午後五時半

平和祈念「音魂(おとだま)コンサート」

於 寒川町 町民センター (午後五時開場)

出演

\* 伊藤多喜雄とTAKIO BAND  
\* 炎太鼓ユニット

※七月十一日(土) 午前九時より社務所玄関にて入場券を無料配布します。

(先着三〇〇枚 お一人様 二枚まで)

枚数に達し次第終了 追加配布は行いません

協力 寒川町

八月十五日(土)

午後五時

「第四十六回相模薪能」並びに「花柳流日本舞踊」

於 神社内庭特設能舞台

八月九日(日)～十五日(土)

九時～十六時「終戦七十年資料展」

於 客殿特設会場

終日

「こども絵画展」

於 参道

参道の灯笼に日本神話の絵画を掲げ平和を祈ります。

両展はご自由にご覧いただけます。

## 第四十六回

# 相模薪能のご案内

終戦記念日の八月十五日、先の大戦にて尊い命を捧げられた英霊への慰霊と世界の恒久平和を祈り相模薪能を開催致します。

本年は、花柳眞理子師他による日本舞踊も披露されますのでご覧頂きますよう、併せてご案内申し上げます。

〔演目〕

能 金札(きんさつ)

能 観世 喜正ほか

能 狂言 簸屑(ひくす)

能 野村 萬斎ほか

能 海士(あま)

能 中森 貫太ほか

〔開催日〕

平成二十七年八月十五日(土)

午後五時半 開演予定

〔場所〕

寒川神社境内特設能舞台

申込方法 鑑賞ご希望の方は往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を楷書で明記のうえ左記要項によりお申し込み下さい。

七月一日以降の消印より有効。それより前の消印や記入漏れがある場合は無効となりますのでご注意ください。

先着千名。(一人一枚限りとし、電話での申し込みは受けません。また入場者は中学生以上に限ります。)

申込先 〒253-0195 神奈川県高座郡寒川町宮山三九一六

寒川神社相模薪能係

お問合せ 電話 〇四六七(七五)〇〇〇四

### 《往信面》

253-0195	神奈川県高座郡寒川町	無地で お申し込み下さい。
寒川神社	宮山一九一六	
相模薪能係		

### 《返信面》

郵便番号	住所
〇〇〇〇	氏名
〇〇〇	年齢
〇〇〇	性別
〇〇〇	ご自身の住所・氏名

鑑賞券の転売は固く禁止致します。

## 第六十五回 観桜駅伝競走大会開催

寒川町・寒川体育協会主催による「第六十五回観桜駅伝競争大会」が四月五日

に町内外から七十六チーム約三百八十名の参加を得て盛大に開催されました。

小雨交じりの生憎の天候の中で大会となりましたが、出発地点の参道二之鳥居付近を始め、沿道では多くの人が声援を送っていました。

第一部優勝の相州健児チームと第三部優勝の松浪中A

チームに健闘を称え一之宮賞が送られました。



## 寒川俳壇 年間最優秀句決定

一之宮賞を授与

小誌「相模」に毎月四季折々の俳句を献じて頂いております寒川俳壇の年次総会が、去る三月二十八日に開催され、その席上にて本年度の優秀句が発表されました。最優秀句には、金指月光氏の句が選ばれ、一之宮賞が授与されました。

一之宮賞

(年間最優秀句)

啜呼ぶ

声が昔に

返りけり

金指 月光



## 第四十五回

## 学齢児 図画展開催

四月一日から十日まで第四十五回学齢児図画展が開催されました。

この図画展は、町内の寒川さくら幼稚園、倉見幼稚園、一之宮相和幼稚園の協力を得て、今春小学校へ入学する園児達の健やかな成長と、創造力や独創性を養う事を目的に開催され、本年も個性あふれる作品約百五十点が出品されました。期間中は、自分や友達作品を前に記念写真を撮る親子連れや参拝者の目を惹きつけてくれました。



## 人事

### ◆新採用

△寒川病院▽

看護師

奥野 道子

小林 玲子

高岩 愛

藤澤ゆかり

中嶋 瑞穂

大野 雅史

宮川万里子

長谷川陽一

准看護師  
薬剤師

### ◆退職

△寒川病院▽

看護師 島村 睦子

規則に依り定年退職とする

平成二十七年四月三十日

△神恵苑▽

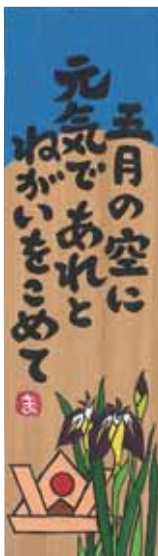
介護福祉士 北條 直史

願いに依り職を免ずる

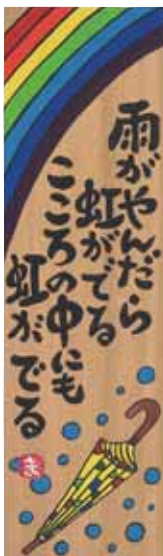
平成二十七年四月三十日

## 今月の木札

月次祭にご参列された方などにお頒けする木札です



月 皐



月 水無

祝祭日には

国旗を掲げましょう





◆ 青少年活動だより



# 寒川神社少年館

## 入館奉告祭・入館式

早咲きの桜に青葉が芽吹き始めた四月二日(木)寒川神社が育成する少年館に新たな仲間を迎える入館式が執り行われました。

すつかり緊張した面持ちの新人館生たちは、式典に先立ち、これからの活動が安全で実り多いものである事を願って、御本殿での奉告祭へ参列し、お祈り致しました。

御本殿の厳肅な雰囲気からか泣き出してしまふ新入館生もいましたが、一方で



口を真一文字につくんで頑張っている館生の姿もあり『もっ幼稚園じゃないんだ』と自分に言い聞かせているように印象的でした。

奉告祭終了後、少年館ホールに場所を移し入館式が行われました。館長先生からお言葉と記念品を頂き、これからの活動への期待に胸を膨らませていました。



## GS 神奈川県第四十五団

### フライアップ式

四月十九日、スカウトハウスにてフライアップ式が行われました。

今年四名がフライアップを迎えました。中学生のシニア部門になるスカウトは、上級部門での期待や抱負を堂々と述べていました。小学四年生からのジュニア部門にアップしたスカウトも元気にソングを歌えました。

新たなメンバー構成になり、これからスカウト達が



少年館は新入館生二十七名を加え、合計一二四名で活動してまいります。

どのように成長してくれるか楽しみです。



▲ 新部門のチーフを受けるスカウト達



## BS 寒川第二団

### 第3回オーバードAYハイイク

ベンチャー隊では恒例となった訓練ハイイクを実施第1回は小田原駅、第2回は横須賀駅、今回は橋本駅から寒川を目指した。

当日は午前六時日の出とともに橋本駅を出発。地図とコンパスを手に相模線沿いを南下し、地域の氏神様に立ち寄った。途中相模原では橋本大神宮・氷川神社・亀ヶ池八幡宮・磯部八幡宮座間では座間神社、海老名では伊勢山大神宮・本郷神社を巡拝。午後六時頃日の

入とともに約三十五キロの道のりを完歩し、無事寒川神社に到着した。



▶ 竣工なった亀ヶ池八幡宮にて

## ボーイスカウト寒川第2団 もちつき・バザー大会開催

<とき> 5月3日(日) 9時~14時

雨天の場合翌日

<ところ> 寒川神社 馬場



スカウト募集中

あったか! つきたて! あんこ・きなこ・いそべ・大福・よもぎ餅販売致します。

~つき手飛び入り大歓迎~

スカウト体験入隊コーナー開設

※同日10時~12時

# 寒川病院だより

☎0467(75)6680 寒川町宮山193  
http://www.samukawabyouin.com



4月から診療表が変更になりました。

寒川病院 診療表		月	火	水	木	金	土
内科	1診	栗田啓司	伊勢川拓也	栗田啓司	山口俊夫	鳴海裕之	鳴海裕之
	午前 2診	山口俊夫			岸仲正則	栗田啓司	伊勢川拓也 1,3,5週 栗田啓司 2,4週
	3診	岸仲正則					
	午後 1診	鳴海裕之	山口俊夫	休診	岸仲正則	山口俊夫	
	2診	岸仲正則					
神経内科	午後		栗田啓司				
呼吸器内科	午前						注2 谷垣俊守 (月2回) (予約)
リウマチ科	午後			内山光昭			
糖尿病内科	午前		丸山真弓	丸山真弓		丸山真弓	
	午後				宮武 範	宮武 範	
循環器内科	午前		干場泰成				神田茂孝
外科	1診	木勢佳史	原 正	徳田裕(乳腺)	原 正	宮北寛士	原 正 1,3,5週 木勢佳史 2,4週
	午前 2診			石田秀樹	岡村卓穂(乳腺)	伊東功(肛門)	伊東功(肛門) 1,2,3,5週
	3診					劉孟娟(乳腺)	
	午後 1診	伊東 功	鍋島一仁	15時30分まで担当医	休診	劉孟娟(乳腺)	
	2診		伊東功(肛門)		岡村卓穂(乳腺)	木勢佳史	
脳神経外科	午後					富永二郎	
皮膚科	午後	太田多美		徳山道生	渡辺絢子		
泌尿器科	午前		河村好章				
整形外科	午前	城倉雅次	坂口 彰	城倉雅次	休診	岡崎 敦	城倉雅次 1,3,5週 休診
	午後	注1 城倉雅次(予約)	城倉雅次	休診	城倉雅次	休診	
眼 科	午前	木勢由利子	木勢由利子	小林綾子	保科真理	木勢由利子	及川哲平 1週 木勢由利子 2,4週 嶋村慎太郎 3週 休診 5週
	午後	木勢由利子	松本文也	及川哲平	鈴木崇弘	鈴木崇弘	
耳鼻咽喉科	午前	大上麻由里	大上麻由里	大上麻由里	大上麻由里	小田桐恭子	大上麻由里
	午後	大上麻由里	金田将治	大上麻由里	大上麻由里	関根基樹	
内 視 鏡	午前	原 正	鳴海裕之	中原史雄		木勢佳史	木勢佳史 3週 原 正 4週
	午後	木勢佳史	原 正	伊東 功		伊東 功	

注1 診療開始 15:00~

注2 谷垣医師の診療日はお電話にてご確認願います

五〇一〇(次号)より  
季刊(一・四・七・十月発行)と  
なります

※次号は七月に発刊されます

医療講演会のご案内

と き 5月19日(火)  
午後2時~3時

と ころ 寒川神社 参集殿

内 容 「医者と看護師が家に来る！」  
~訪問医療のはなし~

講 師 乳腺外科 医師  
劉 孟 娟

入場無料 申込不要  
ご来場をお待ちしております。

0467-75-6680  
寒 川 病 院

お詫び

先月の健康手帳「痔の話」で誤植がありました。  
お詫び並びに訂正させて頂きます。

誤 一段目 十三行目  
これには「内痔核」と「外痔核」が多く占め、

正 これには「内痔核」と「外痔核」があります。中でも  
「内痔核」が多くを占め

# 冬川俳壇

大朝寝ちらりとよぎるずる休み  
種芋が男結びで届きけり  
朧夜の糠床の蓋こんと置く  
乗り継ぎの電車待つ間の桜かな  
スケッチの覗き見許す花の下  
二の鳥居三の鳥居や花吹雪  
ひねもすに風を道連れ土筆摘む  
柿若葉飾ったように富士座る  
背番号なきユニホーム風光る  
風光るさら／＼落ちる砂時計  
花冷に風加はりし夕べかな  
團児画く紙いっぱいのチューリップ  
徒長枝の伸び放題や梨の花  
花筏風に委ねてくずれけり  
片言でローマ字を読む花の駅  
春昼や風の届けし鳥の羽根  
葉桜となりて社や神々し  
手を振って振られてゆきぬ花筵  
急降下雲雀すみかの麦畑  
水尾引いて番で泳ぐ残り鴨  
かけ足で桜前線北上し



飛石 槿花  
根岸 君子  
芹澤 徳光  
伊藤 公一  
吉岡 徜徉  
浦野 房子  
宮入 つる  
四ツ車梢月  
菅沼 保幸  
菅沼うめの  
岩田美代子  
松本美智子  
松村 信篤  
倉谷 節子  
金子 つち  
竹村真砂美  
皆川志んこ  
露木てる子  
原野 楽天  
天沼 子平  
三輪 恭子

## 五月 手水舎奉揚

明治天皇御製

たらちねのおやの心は たれもみな  
年ふるままに おもひしるらむ

# 相模詠草

十三歳の命突然うばわれし河原に献花の人はとだえず  
ひと月遅れしだれ梅の花開き弥生の風にほのかに匂う  
煮上りし大豆を潰し塩糍まぜればはやも味噌の顔する  
紅梅のつぼみは枝に行儀よく散歩の團児の赤い帽子  
熱海の海遠く広がる水平線山より望めば地球はまるい  
幕山を下りつ望む梅園の香りと色どり疲れ忘れる  
都立美術館にわが絵出品されおると孫の誘いにわくわく上京  
如月に入りしを椿の咲き出でぬ「羽衣」とう名の淡きくれない  
同室の先輩達にはげまされ心おちつき手術に向う  
春雨のやさしくぬらす石庭に落つる雫を暫し見ており  
寒い夜に甘酒すすり亡母を恋う糍の甘さは亡母のやさしさ  
七草の今朝大輪の百合開く紅色淡く艶やかな花  
太軒の根元に一輪枝のなき花の咲き出るその可憐さよ  
梅が散り桜の便りもちらほらと計画たてる いざ旅に出ん  
待つ吾に軽く手を上げ友は来る待たせてご免の笑顔とともに



安藤 慧  
川島恵美子  
平澤まさえ  
稲垣 武子  
吉田 幸子  
宮治友美枝  
徳江 道子  
宇田川時子  
土屋トミ子  
浜田 寿子  
山口 幸子  
山根喜美代  
亀山 文子  
岡元 芳子  
杉本 照世

## 表紙写真説明

創刊号より各百号ごとの表紙を飾った写真。

## 編集後記

次号から季刊となります  
心機一転 より見易く充実

した社報作りの構想を目下  
検討中です。  
尚、六月号は発刊されませ  
んのでご留意下さい。